

養護教諭を目指す学生を対象とした掲示物作成サークルの取組

Efforts to create information boards by students aiming to be a *Yogo* teacher

渡辺 美恵・矢野 由紀子・伊藤 みどり

愛知みずほ短期大学

Mie WATANABE Yukiko YANO Midori ITOH

Aichi Mizuho Junior College

キーワード：養護教諭志望，保健室掲示物，経験からの学び

Key Word：Yogo teacher aspiration, information board, learning from experiences

I はじめに

養護教諭が作成し保健室等に掲示されている掲示物は、健康に関する情報を伝えるための保健指導の手段のひとつである。木下¹⁾は、子どもの学びの場を提供するために、子どもたちの反応を見ながら養護教諭の想いをダイレクトに発信する掲示物づくりを行っている。月刊誌「健康教室」（東山書房）に連載されている「見て、触れて学ぶ今月のワクワク掲示物」の中でも、作成方法だけでなく作成の意図や込められたメッセージなどが取り上げられている。養護教諭は、勤務校の子どもたちの健康に関する興味関心を高めるために、見て、触れて学ぶことができる掲示物を作成しようと取り組んでいるのである。

幡野²⁾は、幼稚園の保育室の壁面装飾の分類を行った研究で、壁面装飾・掲示には、教育的要素が多く含まれていることに加え、教育的情報を示すための掲示板的な役割と、それを楽しく明るく、幼児に分かりやすい表現方法で示したい、という教師の意図が共存していることを示唆している。養護教諭が作成する掲示物についても同様に、健康教育の要素を前面に出した掲示板的な役割と子どもたちが興味関心をもって学ぶことができる方法でといった意図が共存するものと考えられる。

このような、教育的な情報を取り入れた上で、さまざまな造形的工夫を凝らした掲示物を自ら考え作り上げることは、作成経験のない学生にとっては難しいことである。そこで、養護教諭志望の学生を対象に、現職の養護教諭によって紹介された掲示物を実際に作成

する「見て、触れて学ぶ今月のワクワク掲示物」作成サークルを開設することにした。ここでは、作成の意図を理解しその方法を習得していくことをめざしたい。養護実習において掲示物を作成する際に、健康課題解決に向けてどのような意図や方法で作成するとよいのか等を考えるにあたり、この経験が生かされるであろう。

本稿では、サークルに参加した学生の振り返りをもとに、サークル開設の成果について考察し今後の取組のあり方について検討資料を得ることを目的とする。

II 掲示物作成サークルの概要

〔活動内容〕

月刊誌等で現職の養護教諭によって紹介された掲示物を参考に作品作りをする。

〔時間及び場所〕

前期：金曜 2 限 後期：火曜 4 限・学校保健研究室

〔対象者〕

養護教諭志望の学生のうち希望者

〔成果物の取り扱い〕

- ・2 号館 2 階の掲示板もしくは、学校保健研究室前のホワイトボードに掲示する。
- ・作品のねらいや作成の工夫点について考える等、作品理解を深める機会をもつ。

III 対象および方法

1. 調査対象と時期及び方法

2017 年 7 月 1 日～2018 年 1 月 31 日において週 1 回

開催（計 16 回）した『「見て、触れて学ぶ今月のワクワク掲示物」作成サークル』に、2 回以上参加した学生 9 名に行った参加後のアンケートを対象とした。

アンケートは、2018 年 2 月 14 日、調査対象者に対して直接協力依頼を行い、自由記述式で実施した。

2. 倫理的配慮

アンケート依頼時、研究の趣旨について口頭で説明をし、承諾を得られた学生にアンケート用紙を配付した。また、アンケート調査は無記名で行った。

3. 調査内容

アンケートの内容は、①作成した掲示物のテーマと工夫点、②掲示物を作成した感想、③掲示物作成の経験から学んだことの 3 項目である。

4. 分析方法

掲示物を作成した感想は抜粋して紹介する。掲示物作成の経験から学んだことの質問は、自由記述内容について、記述内容の意味を変えない程度の簡潔な文章で表記し、意味内容の類似性により分析し、サブカテゴリー化、カテゴリー化した。これらの過程は、共同研究者間で合意を得ながら行った。

IV 結果

1. サークルの活動内容

「見て、触れて学ぶ今月のワクワク掲示物」作成サークルへの参加人数及び活動状況を表 1 に示した。

16 回の開設のうち、延べ 44 名（1 回平均 2.8 名）の参加があり 6 作品を完成させた。作品の規模にもよるが、1 作品の完成までに 1~3 回（平均 2.7 回）の作成時間を必要としていた。それぞれ初回は、資料を読み、テーマの決定、ねらいや構想の検討、完成イメージを共有する時間として使っていた。

表 1 サークルへの参加人数及び活動状況

回	日	参加人数 (名)	作品No.	活動内容
1	7/7	4	No. 1	・テーマの決定 ・ねらい、構想の検討
2	7/14	3		・作成
3	7/21	3		・作成、掲示
4	10/3	2	No. 2	・テーマの決定 ・ねらい、構想の検討 ・内容の確認と修正
5	10/10	3		・作成、掲示
6	10/17	2	No. 3	・テーマの決定 ・ねらい、構想の検討
7	10/24	2		・内容の確認、作成
8	10/31	4		・作成
9	11/7	4		・作成、掲示
10	11/14	4	No. 4	・テーマの決定 ・ねらい、構想の検討
11	11/21	3		・作成、掲示
12	11/28	2	No. 5	・テーマの決定 ・ねらい、構想の検討
13	12/5	2		・取り扱い内容に関する情報の収集及び確認 ・役割分担
14	12/12	2		・作成
15	1/16	2		・作成、掲示
16	1/23	2		No. 6

* 作品 No. は、表 2 に示す作品テーマ・具体に同じ

2. サークルにおいて作成した掲示物

実際に作成した掲示物のテーマと具体、参考資料と学生自身が記した工夫点を表 2 に示した。

表 2 掲示物のテーマと具体、工夫点

作成日 (回数)	テーマ・具体	参考資料・工夫点
7/7 7/21 (3 回)	No. 1 一日に必要な水分量 	[参考資料] 健康教室第 800 集 2017 年 7 月号 P4-5, 28-31 [工夫点] ・ 1 日に必要な水分量（黄）と失う水分量（青）について、色画用紙を 2 色使って一目で理解できるようにした。 ・ 数字での表記だけでなく、日常生活において想像しやすいよう、ペットボトルを基準に量を示す方法を参考にした。

<p>10/3 10/10 (2回)</p>	<p><u>No.2 どっちが正しい? けんこうクイズ</u></p> 	<p>[参考資料] 健康教室第791集 2016年10月号 P104 健康教室第803集 2017年10月号 P94</p> <p>[工夫点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題カードの裏面に答えを記したことで、答えが一目で分からないので、問題を読んで考える時間を設けるようにした。 答えや解説を読むために、子ども自身が掲示物に触れることができるようにした。
<p>10/17 11/7 (3回)</p>	<p><u>No.3 ウイルスや細菌の感染のしかた</u></p> 	<p>[参考資料] 健康教室第793集 2016年12月号 P4-5, 28-31</p> <p>[工夫点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月の保健目標に合わせ、「かせ予防」の指導内容として感染を取り上げたので、感染について学ばせるだけではなく、その予防法についても知らせるように構成した。 イチョウやもみじを添え、秋らしく季節感を感じられるようにした。
<p>11/14 11/21 (2回)</p>	<p><u>No.4 マスク正しくつけてる?</u></p> 	<p>[参考資料] 健康教室第806集 2018年1月号 P9-15</p> <p>[工夫点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しいマスクの使用方法を一目で分かる(違いが分かる)ように、左右に並べた。 鼻を立体的にし、実物のマスクを使用したことで、「あごマスク」とはどんな状態のことか確認しやすくした。
<p>11/28 1/16 (4回)</p>	<p><u>No.5 健康かるた</u></p> 	<p>[参考資料] 健康教室第806集 2018年1月号 P9-15</p> <p>[工夫点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健集会や保健指導で実際に子ども達が使うことを想定した大きさのかるたにした。 最新の健康情報を調べて取り入れ、読み札を作成した。
<p>1/23 (1回)</p>	<p><u>No.6 保健室利用のきまり</u></p> <p>(具体物省略)</p>	<p>[参考資料] コマザキ先生のほけんだより P6</p> <p>[工夫点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健だよりに掲載する内容をそのまま常掲用に作成した。

3. 掲示物作成後の感想

9名の学生の感想を抜粋して示す。

- ・参考になるものがあつたので、完成のイメージをもちながら作ることができた。
- ・文字の大きさやどのあたりに貼ると子どもたちは見やすいのかなど、みんなで考えながら作ることができた。
- ・一つのをみんなで協力しながら作ったので、完成した時は達成感があつた。
- ・2人で作成したので、それぞれが得意なことを担当できた。(絵の担当、文の担当)
- ・文章等の相談と共通理解をした上で、役割分担や作業を行ったので、効率よくできたと思う。
- ・小学校のときに実際に掲示物を作成した経験があつた。中学・高校では意識して掲示物を見ていたので、それが参考になり、イメージも持ちやすかつた。
- ・文章は簡潔にして、イラストを多めに作成した。もっと、手で触って動かせるものにしたり、立体感のあるものを取り入れて興味をもってもらえるようなものにすればよかつたと反省している。
- ・参考となる資料が沢山あることでお互いに良いと思つた資料を出し合つた。話しながら行つたので、色々なアイデアも浮かびやすかつた。

これらの感想からは、参考資料を活用したことが、完成物のイメージ化に生かされたこと、複数人で取り組んだことで、得意なことを生かした役割分担をして効率よく作成できたこと、さらに、相談しながら協力して取り組むことができたことが読み取れた。

4. 掲示物を作成する中で学んだこと

9名の学生の掲示物作成の経験から学んだことの質問における自由記述内容から、掲示物作成からの学びとして、27の具体的な記述内容を抽出した。掲示物作成からの学びとして整理した内容を表3に示した。27の具体的な記述内容は、8サブカテゴリー、3カテゴリーに分類できた。具体的な記述内容を〈 〉、サブカ

テゴリーを〔 〕、カテゴリーを【 】と表記する。

1つ目は【造形的工夫】であり、5サブカテゴリーで構成された。その内容は、〈色の工夫で見やすさが変わる〉などの〔配色〕や、〈文字を大きくしたり太くしたりする〉などの〔文字のバランス〕、〈実物を見せる〉などの〔触れることができる〕、〈文字だけにせず、絵を使う〉などの〔イラストの使い方〕、〈掲示物の大きさをイメージしておく〉という〔全体の大きさ〕であつた。

2つ目は【教育的意図】であり、2サブカテゴリーで構成された。その内容は、〈何を学んでほしいか考えて〉などの〔ねらいの明確化〕や、〈どの学年の子どもが見ても想像しやすいもの〉という〔発達段階を踏まえる〕であつた。

3つ目は【自身の知識の深まり】であり、〈自分自身の知識も深まった〉という〔自身の知識の深まり〕の1サブカテゴリーで構成された。

V 考察

1. 掲示物作成サークルの開設の成果

保健室の環境づくりは保健室経営の重要な要素である。子どものヘルス(養護)ニーズに即した保健室の環境整備が必要であることに加え、掲示物は保健指導の媒体としてのほか、保健室の雰囲気をつくりだすものとして有効に活用されるものである³⁾。

取組参加後のアンケート調査の結果から、学生らは掲示物を作成する中で、〔配色〕、〔文字のバランス〕、〔触れることができる〕、〔イラストの使い方〕、〔全体の大きさ〕を含む【造形的工夫】と、〔ねらいの明確化〕、〔発達段階を踏まえる〕を含む【教育的意図】について、学んでいたことが明らかになった。掲示物作成は、平面構成や内容を検討して、目の前にいる子どもたちの健康課題を考えて作成していること等から養護教諭の実践(養護実践)といえ、教育活動として目的意図的に働きかける行為である⁴⁾ことを、学生自身が掲示物を作成する経験から学んでいたといえる。

表3 掲示物作成からの学び

カテゴリー	サブカテゴリー	具体的な記述内容
造形的工夫	配色(7)	・色の工夫で見やすさが変わる ・色画用紙を使い分ける
	文字のバランス(5)	・文字を大きくしたり太くしたりする ・文字のバランスが重要になる
	触れることができる(4)	・実物を見せる ・立体的にする
	イラストの使い方(3)	・文字だけにせず、絵を使う
	全体の大きさ(1)	・掲示物の大きさをイメージしておく
教育的意図	ねらいの明確化(4)	・何を学んでほしいか考えて ・伝えたいことを整理して
	発達段階を踏まえる(1)	・どの学年の子どもが見ても想像しやすいもの
自身の知識の深まり	自身の知識の深まり(2)	・自分自身の知識も深まった

また、学生らは、【自身の知識の深まり】を学びとして実感していることも明らかになった。掲示物を作成する際に、最新の情報、正しい情報を提供するために情報収集に時間を費やしている場面も見受けられた。こうした時間が、【自身の知識の深まり】になったのであろう。掲示物は、読み手である子どもたちにとって魅力的でもあり、養護教諭の情報発信の重要な位置も占めている⁴⁾。学生が掲示物で子どもたちに何を伝えたいか、どのように興味関心を持たせるか考えながら、取り扱う掲示物の内容について情報を収集したり確認したりした時間は、学生自身の知識の再確認や新しい学びとなり有益な時間となったといえる。

学生の感想の中に、「もっと、手で触って動かせるものにしたがり、立体感のあるものを取り入れて興味をもってもらえるようなものにすればよかったと反省している。」というものがあつた。また、No.3及びNo.5の作品を掲示する時、画鋸を多く必要とすることに加え、画鋸を多く使うことで文字や絵が見えなくなること気がつき、両面テープを使って掲示する方法を選択する場面も見受けられた。実際に触って確かめることができる、立体的な掲示物なども考慮すると、子どもの興味関心を引き効果的である。ただし、掲示する際は、画鋸や釘等の安全に配慮し、子どもが掲示物を活用するときに、けがをすることがないように安全点検をする³⁾ことも、指導者側としても心得ておく必要がある。

2. 今後の取組のあり方

大塚ら⁵⁾は、保育学科の学生を対象とした「造形」の授業においてグループワーク「壁面制作」の「協働学習」の効果や課題を検証する中で、学生は自分自身で作ることと平行して、教員としてやらなければならないことについても意識できるようになった。将来、保育する子どもたちに共同作業を指導する際にも、身をもって体験し感じられたことが生かされるだろうと考察している。掲示物を作成した感想において、参考資料の活用が完成物のイメージ化に生かされたこと、複数で取り組んだことで、得意なことを生かした役割分担をして効率よく作成できたこと、相談しながら協力して取り組むことができたことが読み取れたが、協力して作成したことで達成感を味わっていたことについても取り上げておきたい。どの作品においても、作成の過程では資料を読み込み、テーマの設定、ねらいや構想の検討など、掲示物の完成イメージを共有する時間をもっていた。複数名で共に1つの掲示物を作成していく過程においては、コミュニケーションをとることを必要とする。互いの意見を尊重しあいながらよりよい方法を選択し、造形物を生み出していくのである。このようなコミュニケーションの中で、短大での

学びや採用試験対策などの勉強方法や進捗状況、悩みなどを交流しながら、同じ夢に向かって頑張っている仲間と共に認め合い刺激しあう関係を築く場となることも願うところである。

養護実習前の事前学習として保健室掲示物作成を授業内で行っている大学もある⁶⁾。2017年度のシラバスを概観したところ、本学における養護教諭二種免許取得のためのカリキュラムにおいて、授業科目の中で保健室の掲示物作成を扱っている科目は見当たらなかった。掲示物作成の経験から、【造形的工夫】や【教育的意図】、【自身の知識の深まり】について学ぶことが明らかになった。養護教諭志望の学生においても保育学科の学生と同様に、グループワーク「保健室掲示物作成」によって、自分自身が作ることと平行して、養護教諭としてやらなければならないことについても意識できるようになるものとする。今後のカリキュラムにおいては、グループワークを取り入れた保健室の掲示物作成を授業内に組み入れたいと考えている。

[配色],[文字のバランス],[触れることができる],[イラストの使い方],[全体の大きさ]を含む【造形的工夫】が掲示物を作成する中で学んだこととしてあげられた。【造形的工夫】を学ぶ場として、本学の共通科目にある「芸術」や専門教育科目にある「基礎造形」は、共に選択科目ではあるが、積極的な履修を促す必要もあるだろう。

VI まとめ

本研究は、2017年度に開設した掲示物作成サークルの開設の成果について考察するとともに、今後の取組のあり方についての検討資料を得ることを目的に、サークルに参加した学生の掲示物作成後の振り返りをもとに検討した。以下のような結果が得られた。

1. 学生の感想からは、参考資料を活用したことが、完成物のイメージ化に生かされたこと、複数人で取り組んだことで、得意なことを生かした役割分担をして効率よく作成できたこと、さらに、相談しながら協力して取り組むことができたことが読み取れた。
2. 掲示物作成からの学びとして、【造形的工夫】、【教育的意図】、【自身の知識の深まり】の3項目が見出された。

謝辞

本取組は平成 29 年度学長裁量経費の助成を受けて行った。

引用・参考文献

- 1) 木下正江：健康教室，東山書房，62（13），84-85，

- 2011
- 2) 幡野由理, 小田倉泉: 保育環境における壁面装飾の意義Ⅱ—教育空間としての幼稚園の壁面装飾—, 埼玉大学紀要教育学部, 59(2), 69-78, 2010
 - 3) 高橋朋子: 第5章4節 保健室の整備, 大谷尚子, 中桐佐智子ら編著: 改訂養護実習ハンドブック, 94-102, 東山書房, 2017
 - 4) 河田史宝: 健康教室, 東山書房, 62 (13), 62-65, 2011
 - 5) 大塚習平, 三上慧: 保育者に必要な協働する力の育成—協働学習「壁面制作」を通して—, 湘北紀要, 37, 53-69, 2016
 - 6) 斉藤ふくみ: 養護実習事前学習としての保健室掲示

物作成に関する一考察, 茨城大学教育実践研究, 31, 203-211, 2012

参考資料

- ・健康教室第800集 2017年7月号 P4-5, 28-31, 東山書房
- ・健康教室第791集 2016年10月号 P104, 東山書房
- ・健康教室第803集 2017年10月号 P94, 東山書房
- ・健康教室第793集 2016年12月号 P4-5, 28-31, 東山書房
- ・健康教室第806集 2018年1月号 P9-15, 東山書房
- ・健康教室第806集 2018年1月号 P9-15, 東山書房
- ・コマザキ先生のほけんだより P6, 東山書房